

今ある幸せを大事にし、戦争は二度と起きない様にしないとけなないと思ひました

私自身、今回の修習を通して、いろいろ考えたせうおぼえは、何のために戦争体験者の話を聞くのか、それは当然、戦争時代のことを知り、戦争の悲惨さを知り、平和への思いを強くするため、ということにはなんでしょう。でも、それだけでなく、いんていふか、私があはにたやな生に生まれるとは、まず「知る」と「知る」。平和というのは、誰かから与えられるものではなく、自分から与えなければならぬものと思ひました。

す、そのためには、世界で、日本、どんなことが起きてくるのか、「知る」と「知る」と思ひます。イスラム国がどんなふうになつてくるか、アメリカは世界で何をしようとしているのか、中国は、ロシアは、中東はどんなふうなっているのか、また日本はどんなふうな世界情勢に対して、どんなことをしようと考えているのか。

れています。いろんな意見があります。推進派は積極的平和主義といい、反対派は戦争放棄といひます。それぞれの意見をよく「理解し、何が正しいのかを、自分自身で「判断」できる力をつけていくことが大切です。

とは言つものの、かほりの学力が低いと難しいこととします。

だから勉強せんとマカニのぞろ。世界で起つてくることを「知り」正しく「理解し判断」できる「大人」になるために、しっかりと力をつけていきましよう。

前々から戦争に良いイメージほど、一度も持たず無か、たけど、今回話を聞いて、悲しさが伝わりました。

空襲にぶちかゝる日々が、どれ程苦しいかは分からないが、想像するだけで悲しいものだった。

当時の天皇は、竹敵勝ち目が無いのに自分の國をほうほう方に進めたい、たのか分らない。

今、現代の日本でも、集団的自衛権がどうとか、問題はあるが、七十年戦争をしない法を作り、守つてきたのに、また同じ悲しさまで繰り返してはならないと思う。

人を殺して食ふのは、狂、こま、た人。そんな人を作り上げていくせの中になつてはいけない。

今ある幸せを大事にし、戦争は二度と起きない様にしないとけなないと思ひました。

3<み
5<み

3<み
M<み

ぼくは、橋本さんのお話を聞いて、心に残つたものが二つあります。

一つ目は、「戦争がおこつたときに、必死に逃げたときに、心の中には、お父さん、お母さん助けを願ひました。」と云うことです。そして、ぼくはその橋本さんの気持ちを聞いて、「戦争には、にくさんの悲しみや苦しみがあふんだ」と思ひました。

二つ目は、「兵隊さんは、行く前には、天皇陛下のためにがんばりますと、おいつくをする人です。」と云うことです。ぼくは、「何で、兵隊さんは、天皇陛下のためにがんばつて戦いをするのかば」と思ひました。

今日、橋本さんの話を聞いて、心の中に一番思ふことは、「もし二度と戦争をしないように、平和は未来がくるように、ぼくは、こぼしは、と思ひました。」

55 期生の仲間たち

東三国中学校 1 年生学年通信 vol.20 2015 年 6 月 22 日(月)